

田坂広志の「**深**き思索、**静**かな気づき」

危機において 運気を引き寄せるリーダー

か つて大手都市銀行の頭取を務めた人物
に伺ったことがある。

「取引先の経営危機において、再建のために経営陣として派遣する人材は、どのような基準で選んだのでしょうか」

この問いに対し、頭取時代にBanker of the Yearの世界的評価を得た経営者は、一言で答えた。「それは決まっているよ。運の強い奴だよ」

それから数十年、様々な経営者の参謀として仕事をしてきたが、その体験に基づき、筆者もまた、著作や講演で、次の言葉を語っている。

「経営者の究極の力量は、運が強いことである」

実際、優れた経営者は、このコロナ禍のような危機においても、不思議なほど、強い運気を引き寄せ、危機を好機に転じていく。さらに、強運の経営者は、自分だけでなく、部下や社員の運気を高め、自身の率いる会社の運気を高めることができる。

そして、これは経営者だけではない。スポーツの世界でも、優れたリーダーは、自身の力でチームに強運を呼び込むことができる。

2010年のサッカーワールドカップ・南アフリカ大会において、激闘PK戦の末、惜しくもベスト8を逃がした岡田武史監督が、試合直後に語った敗戦の弁は、「自分の執念が足りなかった」との言葉であった。

この言葉は、裏返して言えば、「リーダーは、自身の力でチームに強運を呼び込める」との岡田監督の信念の表れでもある。

では、自分だけでなく、部下や社員、チームのメンバーの運気を高め、会社や組織全体の運気を高めることのできる経営者やリーダーとなるためには、何が必要か。

その一つの絶対的条件は、「ポジティブな想念の感染力」である。

すなわち、古今東西の運氣論において「ポジティブな想念が強い運気を引き寄せる」ということは共通に語られるが、強運の経営者やリーダーは、自分がポジティブな想念を持つだけでなく、部下や社員、メンバーにも、そうしたポジティブな想念が伝播していく「想念感染力」を持っている。

筆者は、若き日に民間企業に勤め、ある取締役から直々の薫陶を受けたが、厳しい状況にあるプロジェクト案件を報告するため、この取締役の部屋に入っても、打合せを終え、部屋を出てくるときには、この取締役のポジティブな想念が伝播し、いつも、わくわくした気分になっていたことを思い出す。

この取締役の強運は、社内で弱小部門を率いながらも、遂に、この企業の社長、会長にまでなったことに象徴されるが、この経営者もまた、素晴らしい「想念感染力」を持ったリーダーであった。

では、我々経営者やリーダーは、いかにすれば、そうした「ポジティブな想念」を身につけ、その想念を部下や社員、メンバーに伝播させる「想念感染力」を身につけることができるのか。

筆者は、あるとき、この取締役の強運の秘密を伺い知る言葉を聞かされたことがある。

「自分は、これまで、99%駄目だという状況で、それでも諦めず、粘って状況を逆転したことが、何度かある。その自信が、自分を支えているのだね」

すなわち、極めて厳しい逆境において、なお、決して諦めぬ精神。それが、運気を引き寄せる。そして、極限の逆境において運気を引き寄せた体験が、その人物に“自信のオーラ”を与える。そのオーラこそが、「想念感染力」の正体なのであろう。

1997年のワールドカップ・フランス大会のアジア最終予選。戦績不振の責任を取って退いた加茂監督の後を受け、急遽、監督に昇格した岡田武史氏は、必勝が課せられた次のウズベキスタン戦も、リードを許し、辛うじて引き分ける結果に終わった。

日本中のメディアも国民も「ああ、予選突破は絶望的になった…」と落胆した状況において、試合後の記者会見で、岡田監督は何と語ったか。

「いや、まだ首の皮一枚残っています」と述べた。

たしかに、この時、まだ、プレーオフ進出、予選突破という可能性が僅かに残っていた。その僅かな可能性を決して諦めなかった精神が、あの「ジョホールバルの歓喜」へと結びついたのであろう。

岡田監督は、運が強いから予選を勝ち抜いたのではない。決して諦めぬ精神が、運気を引き寄せたのである。それは、あの取締役も、しかり。

されば、我々が、自らに問うべきは、自身の運が強いのか否かではない。いかなる逆境においても、決して諦めぬ精神を持っているか否かであろう。

その精神は、想像を超えた運気を引き寄せる。①



Hiroshi
Tasaka

田坂広志◎東京大学卒業。工学博士。米国バテル記念研究所研究員、日本総合研究所取締役を経て、現在、多摩大学大学院名誉教授。世界経済フォーラム（ダボス会議）Global Agenda Council元メンバー。全国6,100名の経営者やリーダーが集う田坂塾・塾長。著書は『運気を磨く』など90冊余。tasaka@hiroshitasaka.jp